

富山県におけるヒナコウモリの越冬集団の記録

著者	清水 海渡
雑誌名	富山市科学博物館研究報告
号	44
ページ	49-50
発行年	2020-07-01
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=1987

短 報

富山県におけるヒナコウモリの越冬集団の記録*

清水 海渡

富山市科学博物館

939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

Notes on Hibernating Colony of
Vespertilio superans in Toyama
Prefecture, Central Japan

Kaito Shimizu

Toyama Science Museum

1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama 939-8084, Japan

1. はじめに

ヒナコウモリ *Vespertilio superans* はアジア東部に分布する種であり、日本国内では北海道から九州にかけて広く記録されている (Fukui, 2015). 本種は、主に樹洞をねぐらとして利用すると考えられており (前田, 2008), そうした樹洞ができるような大木の減少に伴って個体数が激減しているとみられていた (前田, 2002). しかし、『環境省レッドリスト2007』(環境省自然環境局野生生物課, 2007)以降, 絶滅危惧種から除外されている (環境省自然環境局野生生物課希少保全推進室, 2014, 2019). これは、調査によって国内に生息する個体数は安定していることが確認され, 絶滅の恐れはなくなったとの判断によるものである (環境省自然環境局野生生物課希少保全推進室, 2014).

富山県における本種の記録は, 2000年に有峰で発見された雄個体 (身体の各部位の計測値付き) 1頭と, 具体的なデータを伴わない南砺市利賀村豆谷隧道におけるものの合計2例が『レッドデータブックとやま』(富山県生活環境部自然保護課, 2002)とその改訂版 (富山県生活環境部自然保護課, 2012)に掲載されているのみである. なお, これらには出典が示されておらず, かつ, 県内の哺乳類記録をまとめた村井ほか (2003a, b) や南部 (2009) にも本種の文献記録は見当たらないため, 富山県生活環境部自然保護課 (2002) および富山県生活環境部自然保護課 (2012) の記述は, 文献からの引用

ではなく, オリジナルの情報とみられる. 以上の経緯から, 県内の本種については, 確認日や個体数, 確認された状況等の基礎データを伴う記録はこれまでになかった.

筆者は, 富山県富山市においてヒナコウモリの越冬集団を確認したので, 同県における冬期の観察例として報告する.

2. 発見と経緯

2019年3月30日, 富山県富山市瀬戸の^{てんとび}貂飛トンネルにおいてトンネル壁面連結部の隙間に集団で越冬しているヒナコウモリを発見した (Fig. 1). 発見集団は, 1カ所の隙間に37頭が入っていた. その後, 同年4月18日には29頭に, 5月2日には12頭となった (Table1).

集団を構成する各個体の区別はしていないため, 単純に減少したものか, 個体の入れ替わりがあったのかは不明である.

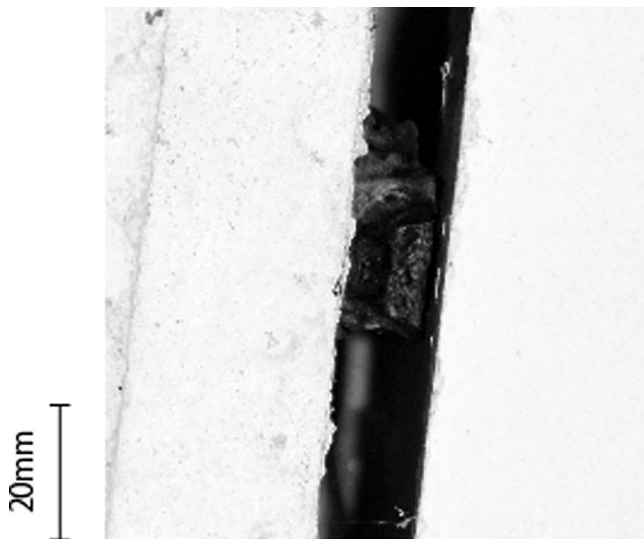


Fig. 1 Asian parti-colored bats observed in gap in tentobi tunnel. Date taken: Mar. 30, 1019

Table 1 Changes in Asian parti-colored bats population in Tentobi tunnel.

Year	Day and Month	Population
2019	30, Mar.	38
	18, Apr.	29
	2, May	12

* 富山市科学博物館研究業績第565号

なお、同トンネル内では、ほかにモモジロコウモリ *Myotis macrodactylus*, ユビナガコウモリ *Miniopterus fuliginosus*, 及びノレンコウモリ *Myotis nattereri* も確認された。

3. 考察と今後の課題

今回の発見は、富山県内での初の越冬集団記録となった。今までに本種の越冬集団は、埼玉県の新幹線の高架にある隙間（大沢ほか，2014），神奈川県的神社本堂の屋根にある隙間（山口，2006），埼玉県の博物館施設の壁面にある隙間（大沢ほか，2018），トンネル連結部の隙間（山口ほか，2005）といった建築物などの人工物で多く見つかっており、今回の記録もこれに準じていた。

一方で繁殖期の集団は県内で発見されておらず、冬期以外のねぐらや繁殖集団の発見が課題である。またこの場所に集まる明確な時期と繁殖地へと移動する時期についても継続的に観察する必要がある。

4. 謝辞

調査に際し、過去の富山県内におけるヒナコウモリに関する文献調査にご助言をいただいた（公財）富山市ファミリーパーク公社の村井仁志氏に深く感謝申しあげる。

5. 引用文献

- Fukui, D., 2015. *Vespertilio superans* (Peters, 1880). In: Ohdachi, S. D., Y. Ishibashi, M. A. Iwasa, D. Fukui and T. Saitoh, (Eds). *The Wild Mammals of Japan, Second edition*, pp. 96-98. Shoukado Book Sellers and the Mammal Society of Japan, Kyoto.
- 環境省自然環境局野生生物課，2007. レッドリスト2007 別途資料1 レッドリスト哺乳類，3pp. 環境省自然環境局野生生物課，東京. <http://www.env.go.jp/press/files/jp/9941.pdf> (2020年1月28日アクセス).
- 環境省自然環境局野生生物課希少保全推進室，2014. レッドデータブック2014—日本の絶滅の恐れのある野生生物—1 哺乳類，132pp. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室，東京.
- 環境省自然環境局野生生物課希少保全推進室，2019. 環境省レッドリスト2019, 129pp. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室，東京. <https://www.env.go.jp/press/files/jp/110615.pdf> (2020年1月28日アクセス).
- 前田喜四雄，2002. ヒナコウモリ. 環境省（編）改訂・日本の絶滅の恐れのある野生生物—レッドデータブック—1. 哺乳類，pp. 110-111. 環境省自然環境局野

生生物課，東京.

- 前田喜四雄，2008. ヒナコウモリ. 阿部 永（編）日本の哺乳類 改訂第二版，p. 52. 東海大学出版会，秦野.
- 村井仁志・白石俊明・間宮寿頼・南部久男・岡 圭一・西岡 満・神保美和子・森 大輔，2003a. 富山県における哺乳類の記録（2002年）. 富山の生物，(42)：27-37.
- 村井仁志・白石俊明・間宮寿頼・南部久男・岡 圭一・西岡 満・神保美和子・森 大輔，2003b. 富山県の哺乳類に関する文献 I（2002年）. 富山の生物，(42)：39-46.
- 南部久男，2009. 富山でイノシシがふえた. とやまと自然，(124)：2-5.
- 大沢啓子・佐藤顕義・勝田節子・大沢夕志，2014. 埼玉県の新幹線効果におけるヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* の越冬期と出産哺育期の分布. 埼玉県立自然の博物館研究報告，(8)：49-52.
- 大沢夕志・佐藤顕義・大沢啓子・坂本泰江・長谷川勝・河合久仁子，2018. 埼玉県入間市におけるヒナコウモリ *Vespertilio sinensis* の初記録：越冬ねぐらと幼獣の確認. 埼玉県立自然の博物館研究報告，(12)：37-40.
- 富山県生活環境文化部自然保護課，2012. 富山県の絶滅の恐れのある野生生物—レッドデータブックとやま 2012, pp. 19-30. 富山県生活環境文化部自然保護課，富山.
- 富山県生活環境部自然保護課，2002. 富山県の絶滅の恐れのある野生生物—レッドデータブックとやま, pp. 19-30. 富山県生活環境文化部自然保護課，富山.
- 山口喜盛，2006. 丹沢山地玄倉川流域におけるコウモリ類の隧道利用の季節変動. 神奈川県自然誌資料，(27)：45-49.
- 山口喜盛・曾根正人・山口尚子・渡辺直子，2005. 神奈川県で見つかったヒナコウモリの冬眠集団について. 神奈川県自然誌資料，(26)：49-51.